

平成 27 年司法試験 答案構成

設問 1

1 結論

H3 判決抵触無し

2 理由

(1) 既判力の矛盾抵触が生じない理由

H3 判決

弁論分離可能性 (152 I)

既判力の矛盾抵触の可能性あり

本件

予備的反訴

弁論分離制限 ∵ Y の意思尊重

⇒ 矛盾抵触生じず

(2) 2つの利益を享受することにならない理由

相殺の抗弁 = 予備的抗弁 but 裁判所も拘束

相殺以外で請求棄却 → 債務名義のみ

相殺で請求棄却 → 債権回収期待のみ

⇒ 2つの利益享受不可

(3) 処分権主義に反しない理由

処分権主義違反? 当事者の合理的意思

反訴原告

請求原因○ → 相殺の利益

請求原因× → 反訴の利益

⇒ 合理的意思に反しない

反訴被告

予備的反訴 勝訴判決得られず?

but 相殺の抗弁既判力あり 不利益なし

⇒ 合理的意思に反しない

3 結語

設問 2

1 結論

控訴棄却

2 理由

(1) 不利益変更禁止の原則の意義

304 反する？ 定義

(2) 第1審判決取消し、請求棄却判決が確定した場合

第1審・控訴審ともに請求棄却

but 既判力失われる = 不利

⇒304 反する

(3) 控訴棄却判決が確定した場合

第1審維持

⇒304 反しない

3 結語

設問3

1 結論

認められず

2 理由

(1) Yの言い分

①利 = $Y \rightarrow X$ 請求受けない

②損 = $Y \rightarrow X$ 請求できない

③因 = ①②同様

④法 = 損賠償権不存在

(2) 既判力の作用

客観的範囲 (114)

消極的作用・作用場面

本件

「請負代金請求権の不存在」(114 II)

Y = 請求権の存在を前提 (①②)

矛盾関係

⇒主張排斥

3 結語